

〔總見院殿追善記〕御興○信長・織田の前轍は池田小新、後轍は羽柴御次丸勝○秀昇之御位牌は相公○信

第八男御長慶○下

〔豊鑑〕文月○文祿の比にや、先に若君の有し腹に、男君○秀賴臣誕れ給ふ、二なき祝なれば、はじめの君、餘りかしづき給ふにより、命もみじかくおはしけるにやとて、御ひろいとなづけてそだて給ふ。

〔立桐筆記〕十二の御歳、淺草川御遊被遊候事、御行實に見えたれども、猶も書付申候、威公○頼房○徳川浅草川へ御成有て、お長○光此川游ぐべき歟と御尋あり、游で見可申と御答あり、

〔桃源遺事〕西山公、御諱光圓○中御幼名は長丸、後千代松君、

〔日本書紀〕元明○神代一書曰、狹野尊○武亦號神日本磐余彥尊所稱狹野者、是年少時之號也、

〔日本書紀〕持統三十高天原廣野姬天皇、少名鷗野讚良皇女、

〔續日本紀〕元明○日本根子天津御代豐國成姬天皇、小名阿閉皇女、

〔大和物語〕本院○藤原時平の北のかたの御おどうとのわらは名を、おほつぶねといふ、いますかりけり、

〔續世繼〕五みかさの松○仁和寺法親王○覺をば師子王の宮とぞよには申し、御母の童は名にやおはしけん、

〔愚管抄〕二信清○藤のおどやの女に、西の御方とて院○鳥羽後に候をば、卿二位子にしたるが腹に、院の宮、生まゐらせたるを、すぐる御前と名付て、卿二位が養ひまゐらせたる、初は三井寺へ法師になしまるらせんとて有ける、猶御元服有て、親王○仁にておはしますを、もてあつかひて、○下

〔豊鑑〕城之助信忠の息三法師主○秀信○織田を、信長の跡として、柴田○勝丹羽○長をば三介信雄、美濃國を三七信孝、かく定て各國に歸らんとす、